

ふるさと奥尻通信

令和6年10月18日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

遺跡の発掘調査には、何らかの開発工事により遺跡が壊されるために記録保存する「行政調査」と、研究目的で発掘する「学術調査」の2種があります。今回は後者です。

特集 2024年度青苗遺跡発掘調査速報

福島大学考古学研究室によって青苗遺跡の発掘調査が行われましたので、発掘調査説明会での発表に基づいて調査概要を速報的にお知らせします。今回は、昨年度に試掘調査した結果を元に、かつて丁字頭勾玉等が発見された「墳墓」(通称「山本台地」の「懸崖地点」)に近く、かつ安全に作業できる場所を念頭に置きながら、新たな調査区域を設定しました。この地点の本格的な発掘としては、実に48年ぶりとなります。調査主体は福島大学ですが、奥尻町としては、町役場及び町教委が全面的に調査協力し、奥尻の宝とも言える「勾玉」の被葬者解明を目指すこととなりました。

調査は8月13日より現場作業を開始し、8月31日に現地での作業を終えました。途中、真夏の暑さや大雨での調査区の水没による調査スケジュールの変更もあり、困難な作業が連続しましたが、菊地芳朗教授と学生10名の頑張りにより、なんとか予定内に調査を終了することができました。25日には、現地説明会を開催し、20名ほどの町民の参加を得て、CTレンチ及びDTレンチの2箇所について説明がなされました。

青苗遺跡の発掘調査事例 昭和後期～

1976年(昭和51年)	発掘調査	奥尻町教委
1977年(昭和52年)	発掘調査	奥尻町教委
1978年(昭和53年)	発掘調査	奥尻町教委
1980年(昭和55年)	発掘調査	奥尻町教委
2023年(令和5年)	試掘調査	福島大学



画像は全て現場説明会
配付資料より転載

CTレンチの全景



DTレンチ北側の様子



DTレンチ北側の土器出土状況



CTレンチ南側の土器出土状況。

土器の底部にある刻印
通称「青苗マーク」



CTレンチでは溝状の遺構があり、これに沿うように土器が多数出土しました。その多くが完形に復元できることから、単なるゴミ捨て場のようなものではなく、祭祀の場や墳墓など、当時の人々が何らかの意図をもって人工的につくられた可能性が考えられます。その上位からは1640年に噴出した駒ヶ岳d降下火山灰(Ko-d)と思われる火山灰を検出しています。

CTレンチ北側は少量の土器片や小型の鉄製品が見つかる一方、CTレンチ南側は土器がまとまって出土し、坏(ツキ:小型のうつわ)の中に更に坏を入れた状態で出土した土器や底部に記号(通称「青苗マーク」)を刻印した坏が特筆されます。青苗遺跡を営んだ人々が、自らのアイデンティティなどを杯の底に記録していたことを示すものと考えられます。その他、10～11世紀頃の擦文土器の甕(カメ:煮炊きや貯蔵などに用いた)が出土しています。

DTレンチではKo-d層が確認されないものの、白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm)と思われる土層を確認しました。これは947年に降った可能性が高く、この層の直上から出た擦文土器は、10～11世紀のものとして想定されます。また、青苗遺跡の近くに所在する青苗砂丘遺跡でも、B-Tmが確認されており、その下層ではオホツク文化期の土器が出土しています。DTレンチでもその影響のある遺物出土する可能性があります。

今回の出土遺物(土器、鉄器等)は一度福島大学へ持ち帰り、11世紀前後の土器の他、勾玉の埋葬年代と想定されている8世紀に近い年代の土器なのかどうか、詳細な確認作業が行われて、専門家による検討が加えられることになっています。



青苗遺跡と青苗砂丘遺跡の位置図



青苗遺跡の発掘現場から眼下に広がる青苗の市街地と青苗湾、青苗砂丘を望む風景です。天気良ければ、遠くには対岸の北海道本島が見渡せます。この見晴らしのいい場所に勾玉(町指定文化財)が副葬された墳墓が築かれ、1977年に発見されたのです。大変貴重な勾玉を持った人物がどのような人であったのか、長い間謎のままでした。近年、その解明に挑む研究が始まり、昨年と今年8月には発掘調査が行われました。現場では教授と学生さんたちの師弟愛というか、絆というか、なんとも微笑ましい場面も。研究のさらなる進展に乞うご期待！



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

ドナウの考古学 小野 昭

ドイツから東欧を経て黒海へ続く長大なドナウの流れ。その上流、ドイツ南部地方における人類の痕跡をたどる。11万5千年前のネアンデルタール人から、4万3千年前のホモ・サピエンスの来住、その後の中石器、新石器時代を経て、4000年前の青銅器時代、2800年前の鉄器時代、紀元前15年以降のローマ時代へと連綿と続く。記念物保護と観光についても論じる。

奥尻のつり 2024年夏号

真夏は魚も夏休みをとっているのか、岸边にはほとんど寄りつきません。おかげで釣り人もしばしの休憩。釣り道具のメンテナンスを確実にしておきましょう。現場でトラブルになりやすいのがリールです。磯釣り用の太いテグスの場合は比較的解決しやすいのですが、ルアー釣りでは飛距離アップのために糸が細い仕様の場合がほとんどなので、糸が絡まるライントラブルは大きな時間のロスとなります。そのため、使用後は小まめな清掃を施し、塩気を落としておく必要があります。ショックリーダーの張替えも忘れずに。おっくうになりがちですが、この辺を注意深くおくと、釣果が上がってくることでしょう。かく言う筆者はつついサボりがちです…反省。ということで、秋シーズン開幕目前です。釣りは楽しく適量を。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第8回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号
 迄てでたとにうそとか見思へ肩よ生にうら一行中
 、出家の、声の、りたし乍あつく懸行少しうく田その
 迄たのか矢平が時公しら乍あつく懸行少しうく田その
 迄つら庭)の武井聞、園た、ら、い投げコ、行て、司、平
 てに、の武井聞、園た、ら、い投げコ、行て、司、平
 来て平入、の鳥へ声だ、れよ居出行に馬しまぶともどおが、武
 いた井武、思いく、今、い、表、く、草、ま、投、思、部、ま、行、一、弟、の、昭、二、
 つ。は、スキー乍その、る、へ、の、矢、ど、を、て、げ、い、の、つ、ス、く、矢、部、の、昭、二、
 づ、道、を、喜、ん、め、言、る、つ、を、ト、一、り、も、迄、さ、

のり残ら今残てすし校る大
 あま念D回ついるた一サ学九
 るせなNはてた特。年イの月二
 研んがA学いと殊奥生エ工
 究でし子抽周かれ桑に對ス真日、
 一了孫出辺調、のは象教室授、
 マが発の査そ木赤に色行が、
 で、見て桑中の子自にわ奥ら、
 す口に調ので子孫生変れ、
 。マは査葉す孫生變れ、
 ン至。か。がし化ま



説明会の様子

ま傾生参天が青に
 し、けさ加気開苗よ八
 た注てん者も催遺る月二
 。目のの説集くれ発掘二十五
 度の方明まり二し発掘二日、
 高が多熱、〇た。査調目、
 がく心教名。査調目、
 わ見に授ほ当説迎、
 から耳やど日明、
 りを学のは会

青苗遺跡現場説明会

も学どい真会(のし発暑し
 ま術、つが奥本よ掘か今
 た調楽日黒な尻格う現つ今
 ひ査し焼、いで的か場たで、
 とがかけ手のは発ねにです前
 味初つで首でほ掘。出すが半
 違めた肌、)と参約て、は
 いて。も膝。ん加十い連八涼
 まだ純荒、指どで五た日月し
 しつ粹れ腰先発し年か遺以い
 たたにたはは掘たぶら跡降気
 の。け痛機りではが

ま区にや実興な青図理業校の
 の立神見を災苗記院が二村九
 た成社し果害地号の行年中月
 。り寄とまたと区を見図れに夫八
 立ちいししその街なにまよ教日
 ながた。地後をは記する授、
 づら文途域の歩ら載た高ら立命
 い、化中の復き、さ。大と命館
 て青的、様旧、実れ国連奥館
 考苗空遺子・大際た土携尻大
 え地間跡を復きに地地授高学

地理学習で防災意識向上



今月の一枚

成田英博氏提供

ヤツガシラ 3月21日 賽の河原公園